

## R4. 12月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
12月1日	12月6日	6日	尿路感染症	KT38.8℃ 検尿 亜硝酸 (2+) 蛋白 (+) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤6日間投与 オーグメンチン (250) 3錠3×1
12月22日	12月28日	7日	尿路感染症	KT37.9℃ 検尿 亜硝酸 (+) 蛋白 (+) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤7日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用対応
12月1日	12月4日	4日	尿路感染症	KT38.2℃ 検尿 亜硝酸 (2+) 白血球 (-) 蛋白 (+) 潜血 (-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤4日間投与 ノルフロキサシン (100) 3錠 3×1 経過観察へ
12月8日	12月13日	5日	尿路感染症	12/8昼食後、KT38.1℃ 検尿 亜硝酸 (2+) 白血球 (+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤5日間投与 ノルフロキサシン (100) 3錠3×1 経過観察へ
12月26日	12月31日	6日	肺炎	KT37.0℃ SP02 80% 酸素吸入 1L経鼻にて開始 Dr診察 胸部レントゲン施行 肺炎の診断 抗生剤10日間投与 オーグメンチン (250) 3T 3×1 酸素化、一般状態の経過観察へ
12月1日	12月4日	4日	尿路感染症	KT36.7℃ 検尿 亜硝酸塩 (2+) 蛋白 (-) 潜血 (-) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤4日間投与 オーグメンチン (250) 3T 3×1 経過観察へ

## R5.1月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
1月1日	1月4日	4日	尿路感染症	KT36.7℃ 検尿 亜硝酸塩 (2+) 蛋白 (-) 潜血 (-) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤4日間投与 オーグメンチン (250) 3T 3×1 経過観察へ

## R5.2月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
2月15日	2月19日	5日	尿路感染症	尿パット内、淡血性血尿確認 KT36.2℃ 検尿 亜硝酸 (+)、尿たんぱく (2+) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤・胃薬5日間投与 ノルフロキサシ(100)3錠 3×1 レバミピド(100)3錠 3×1 血尿症状(一)となるも経過観察へ。
2月7日	2月9日	3日	尿路感染症	KT38℃ 解熱剤投与にて一旦解熱 検尿 亜硝酸 (+) 蛋白 (+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤3日間投与 ノルフロキサシ(100) 3T 3×1 解熱剤アセアミノフェン頓用処方 経過観察へ
2月13日	2月16日	4日	尿路感染症	KT39, 1℃ 検尿 亜硝酸(-) 蛋白 (+) 潜血(-) 白血球(2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤4日間投与 オクメチン配合錠(250)3T 3×1 解熱剤アセアミノフェン頓用処方 経過観察へ
2月24日	3月1日	5日	尿路感染症	2~3日前より排尿時痛、残尿感あり 導尿にて残尿確認(60ml) 検尿N(-)K(-)P(+)(-)G(-)Ph(8)H(-)L(-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤5日間投与 ノルフロキサシ(100) 3T 3×1 経過観察へ

## R5.3月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
3月2日	3月11日	10日	尿路感染症	体温38.0℃ 検尿 亜硝酸 (2+) 蛋白 (3+) 白血球 (2+) 尿混濁あり Dr診察 尿路感染症の診断。 抗生剤、胃薬7日間投与 ノルフロキサシン(100) 3錠 3×1 ヲパミド (100) 3錠 3×1 解熱剤 アセトアミノフェン0.4g 頓用 3/24 KT39.1℃と上昇により 抗生剤内服変更 オークメンチン (250) 3錠 3×1 経過観察へ
3月6日	3月9日	4日	肺炎	体温37.6℃ SPO <sub>2</sub> 81% 胸部レントゲン撮影 両肺野に肺炎像の所見あり 聴診上 心音・呼吸音安定 抗生剤4日間投与 オークメンチン (250) 3錠3×1 3/9酸素化低下につき H.P救急搬送そのまま入院へ。 翌3/10同病院より喀痰PCR検査結核菌：陽性の報せあり 同日豊橋某病院転医とのこと。 当施設に於いては保健所指導のもと接触対象者について諸検査と経過観察へ
3月1日	3月2日	1日	尿路感染症	KT39.5℃ 検尿 施行できず Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤1日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
3月2日	3月7日	5日	尿路感染症	2/18より38℃代の熱発あり 検尿 亜硝酸 (2+) 蛋白 (±) 白血球2+ Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤5日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン頓用処方 経過観察へ
3月8日	3月10日	3日	尿路感染症	KT38.1℃ 検尿 亜硝酸(-) 蛋白(卍) 潜血(卍) 白血球(卍) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤3日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3× 解熱剤アセトアミノフェン頓用
3月13日	3月15日	3日	尿路感染症	昼間2時間毎、夜間5～6回の頻尿 検尿 亜硝酸 (+) 白血球 (2+) 蛋白(-)潜血(-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤3日間投与 ノルフロキサシン(100) 3錠 3×1 経過観察へ
3月16日	3月20日	5日	尿路感染症	3/15の採血結果WBC19000 検尿：亜硝酸 (2+) 蛋白 (+) 潜血(-) 白血球 (3+) 頻尿症状 Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤 5日間投与 ノルフロキサシン100)3T 3×1 経過観察へ